



RubyWorld Conference 2016 開催報告

2016年11月3日(木・祝)、4日(金)、島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」(島根県松江市)にて、8回目となる「RubyWorld Conference 2016」を開催しました。主催は、RubyWorld Conference 開催実行委員会(構成機関: Ruby アソシエーション、島根県、松江市、島根大学、松江高専、ジェトロ松江、しまね産業振興財団、島根県情報産業協会、しまね OSS 協議会、経済産業省中国経済産業局)、その他、多くの機関の後援、協賛をいただき実施しました。



今回の国際会議では、Rubyに関するビジネス利用事例や、最新技術の情報などを紹介する様々なセッションを通じて、Rubyがより多くの領域に普及していくことを目指し、国内外18名が講演し、来場者数は2日間で延べ848名(詳しくは下記を参照)を数えました。

オープニング・セレモニーで、まつもと実行委員長、溝口善兵衛 島根県知事、松浦正敬 松江市長の挨拶に続き、経済産業省 商務情報政策局 古原和邦 情報処理振興課長補佐に、来賓ご挨拶をいただきました。



引き続き基調講演では、Rubyの開発者まつもと委員長が「Rubyが可能にしてきたこと」と題し講演。また、2日目の基調講演では、「Social Coding」と題しGitHub Inc.の堀江大輔氏にSocial CodingとGitHubについての紹介とSocial Codingの広がり、今後、Edward Thomson氏にMicrosoft社における体験をもとに実際にどのような変化があったかの紹介、株式会社日本経済新聞社の梅崎裕利氏に事例紹介をご講演いただきました。



初日の午後は、新たにRubyコミュニティに貢献した方の活動を表彰する、「Rubyコミュニティの新人賞」として、2013年よりスタートしたRuby Prize 受賞者の発表と表彰が行われました。その他、国内外のRubyの技術者、企業関係者が講演しRubyの更なる普及・発展に向けて活発に議論がなされました。

なお、クロージング・セレモニーでは、井上浩 実行委員会副委員長が、2日間の議論を振り返るとともに、来年のRubyWorld Conferenceの開催意向を表明し、閉幕しました。

- 来場者について 2日間延べ 848名 (11月3日 481名、11月4日 367名)
来場実数 509名 (県内 264名、県外 236名、海外9名)
 - ・IT企業関係者 298名 (県内102名、県外190名、海外6名)
 - ・その他企業関係者 52名 (県内38名、県外14名)
 - ・行政関係者 59名 (県内53名、県外6名)
 - ・研究教育機関関係者 75名 (県内67名、県外8名)
 - ・一般(所属なし) 7名 (県内3名、県外4名)
 - ・講演者 18名 (県内1名、県外14名、海外3名) ※Ruby Prize 含む

- 講演者について
 - ・国内15名 (企業関係者14名、教育機関関係者1名)
 - ・海外 3名 (アメリカ1名、インド1名、台湾1名/うち企業関係者2名・教育機関関係者1名)